

足腰の強いタフな農林水産業をめざす

## 遠野市農林水産振興ビジョン

**タフ・ビジョン**(**Tono Agriculture Forestry Fisheries Vision**)

とおの アグリカルチャー フォレストリー フィッシャリーズ ビジョン



## I 農林水産振興ビジョンの目的、名称及び計画期間

農林水産振興ビジョンは、本市農林水産業の目指すべき姿や振興に向けた基本理念を明らかにするとともに、実現するために推進すべき施策の方向を示しています。

その名称は、農業、林業及び水産業の総合的な振興を図るためのビジョンとして、

**遠野市農林水産振興ビジョン** とします。

とおの アグリカルチャー フォレストリー フィッシャリーズ ビジョン

なお、Tono Agriculture Forestry Fisheries Vision の頭文字をとって、

略称を「**タフ・ビジョン**」とし、**足腰の強いタフな農林水産業** を目指します。

計画期間は、遠野市総合計画の期間にあわせ、6年間(平成22年度～27年度)としました。

## II 農林水産業の目指すべき姿と実現のためのビジョン

本市の農林水産業の目指すべき姿と実現のためのビジョンを、次の7項目としました。

### 目指すべき姿 1 耕作放棄地ゼロ宣言のまち

市内全ての農地に作物が作付けされ、耕作放棄地や作付けされていない農地がありません。

取組項目: 水田フル活用、農地の流動化・団地化推進、遊休農地の解消、基盤整備の推進

#### 実現のためのビジョン

「戸別所得補償モデル事業」と、生産調整の対象となった水田を有効活用して転作作物の作付けを促進する「水田利活用自給向上対策事業」を2つの柱として、水田のフル活用を推進します。なお、転作においては、麦・大豆等とともに、本市の特徴である耕種と畜産の連携を活用し、飼料作物の作付けを推進します。



担い手農家や集落営農が農地を活用する際、効率的に作業ができるよう農業委員会との連携や専門的なマンパワーを確保し、国の制度活用や市の新たな支援策により農地の流動化・団地化を促進します。

また、農業委員会や関係機関・団体と連携し、耕作放棄地や不作付け地といったいわゆる遊休農地対策を強力に推進し、市内全ての農地に作物が作付けされる取り組みを進めます。

基盤整備については、農地における作業の効率化や、農作物の収量増を図るため、水田のほ場整備や、公共牧場再編整備を推進します。



## 目指すべき姿 2 みんながいきいき就農するまち

老若男女がその特徴を活かし、個人、集落営農、農業法人、企業等で、就業機会や収入が確保され、生きがいを感じ農業に従事しています。

取組項目：認定農業者の確保・育成、集落営農組織の強化、農業法人・企業の農業参入促進、多様な労働力の発揮、市民の農業参加促進

### 実現のためのビジョン

ほ場整備や機械化が進み、認定農業者などの担い手や、営農組合における農作業が効率的に行うことができるようになり、高齢者や女性が集落営農や農産物直売施設などで活動できる環境が拡大しています。



今後ますます、地域農業における認定農業者や集落営農組織の役割が重要となることから、認定農業者の確保・育成と、集落営農組織の強化を推進します。

また、今後の本市農業の振興にとって、農業法人や企業の存在は欠かせないことから、その農業参入を促進します。



多様な労働力の発揮については、青年・壮年・高齢者男女の農業者が、それぞれの技術や体力、知識、経験を生かし、自給農家・販売農家、各種グループ・団体、集落営農、農業生産化法人・企業において役割分担し、就業機会や収入を得て、生きがいを感じて農業生産活動ができる取り組みを推進します。

市民の農業参加促進については、遊休農地等を市民農園として積極的に活用し、市民が気軽に農業に参加できる環境づくりに取り組みます。

## 目指すべき姿 3 農業で生計がたち後継者がいるまち

他産業並みの所得を上げる農家が増え、新規就農者が確保されています。

取組項目：高収益販売農家の拡大、新規就農者の確保・育成

### 実現のためのビジョン

アストはこれまで、県・市・農協が一体となって、遠野農業元気アップチャレンジ事業やASTチャレンジ100事業により、やる気のある農業者やグループに対し広く支援しながら、新しい加工品の開発や販路の開拓に努めてきました。今後は、これまでの取り組みをパワーアップし、作物指導や流通対策を中心に人的体制を充実し、農業経営の多様化・多角化、付加価値化・規模拡大を支援し、高収益販売農家の拡大を図ります。

チャレンジ



パワーアップ



遠野テレビや農林水産振興大会等各種大会を活用し、高収益を上げる農家の営農及び経営状況を積極的に紹介し、農業者のさらなる意欲を喚起します。



また、新規就農者の確保・育成については、専門のマンパワーを配置し、遠野緑峰高校や県立農業大学校等と連携しながら、次代の遠野の農業を担う人材の確保と、研修事業の拡充による人材育成に力をいれます。

## 目指すべき姿 4 産地評価が高くブランド化が進むまち

米を基盤とする生産に加え、畜産・特産品の生産が伸び、産地としての評価と期待が高まっています。

取組項目：生産振興、主産地化の推進、消費者視点に立った取り組み推進、ブランド化の推進

### 実現のためのビジョン

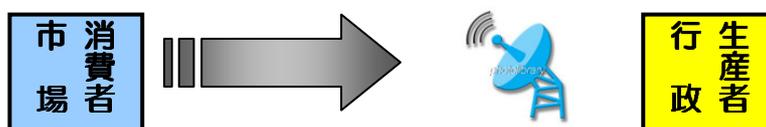
本市の農業は、米や野菜、工芸作物の耕種と、和牛繁殖や酪農の畜産との小規模複合農家が多いのが特徴です。また、耕種農家と畜産農家が連携し、相互に有機堆肥と牧草や稲ワラを供給・利用する仕組みが定着していることから、耕畜連携を柱にすえた循環型農業を一層推進します。



本市農業生産の基盤である米については、「戸別所得補償モデル事業」と「水田利活用自給向上対策事業」を活用し、コスト削減や大規模化、多角化を推進し、所得の確保を図ります。また、盆地特有の寒暖の差や豊富な水、中山間地域という本市の地域特性を生かし、野菜や花き、工芸作物、特産品、特用林産物の各品目ごとに支援策を講じ、その生産を振興します。

主産地化の推進については、これまでのASTの取り組みをパワーアップし、重点品目を定め、その生産拡大に取り組みます。また、畜産については、支援体制や施策の強化により生産額の増を図り、本市農業生産の主要な地位を確立します。

消費者や市場が求める農産物の生産が強く求められていることから、販路開拓に係るマンパワーを確保し情報のアンテナを高くし、生産する品目や品種を常に検証し、情報を生かした生産活動を強化します。



ブランド化の推進については、全国や世界に対する流通を拡大するため、品質の高いものを大量に生産する必要があることから、「遠野」というネームバリューを活かしつつ、特定品目の生産拡大を推進します。また、畜産において、養豚や和牛の繁殖・肥育の分野で企業が大規模な生産を計画していることから、地域と一体となったブランド化を推進します。

## 目指すべき姿 5 六次産業化に積極的に取り組むまち

観光や商工業との連携が進み、付加価値を高める取り組みや流通の多様化が進んでいます。

取組項目：地産地消の推進、六次産業化の推進、農商工連携の推進

### 実現のためのビジョン

農産物直売所に代表される地産地消の取り組みを推進するため、参加する生産者を中心に、本市の農業の特徴である少量多品目生産を推進します。また、農産物直売所や学校給食センターを中心に、地域で生産された農産物の地域内消費の拡大により、生産者と消費者との結びつきを強め、顔が見える安全・安心な流通の取り組みを通し、地産地消を一層推進します。

六次産業化の推進については、生産された農産物の付加価値向上による所得の確保と、多様な労働力の発揮のため、農産物加工施設の整備と、集落営農や農産物直売組織、各種グループによる農産物加工品開発の取り組みと販売促進に対する支援を強化します。

農商工連携の推進については、ふるさと公社や市内商工業者、食品加工メーカーと連携した新たな特産品開発と販売促進を推進します。



## 目指すべき姿 6 里山が美しく林業が元気なまち

路網整備や森林整備が進み、地域から生産される木材を活用し元気な林産業が展開しています。

取組項目：里山美林の推進、林業・木材・住宅産業の振興、低炭素社会への取り組み

### 実現のためのビジョン

里山美林の推進については、市の面積の約8割を占める森林の多様な機能を持続的に発揮できるよう、適切な除間伐や再造林など森林整備と、資源の利用を推進するため作業道の整備を推進します。また、緑化祭や体験活動を通じた市民の森林活動の参加も推進します。



林業・木材・住宅産業の振興については、遠野地域木材総合供給モデル基地を中心に、地域内の川上から川下までの木材関連産業を連携させ、原木や製材品に付加価値を付けて出荷する体制を一層強化します。そのためには、地域から生産される木材を、地域の中で加工し使うことが重要であり、市が率先して公共施設の木造化・木質化にこだわったまちづくりを推進します。



木材は、環境負荷が少なく再生可能な資源であることから、公共施設を中心に木質ボイラーを導入し木質バイオマスの利用を拡大し低炭素社会への取り組みを推進します。

## 目指すべき姿 7 日本のふるさとが実感されるまち

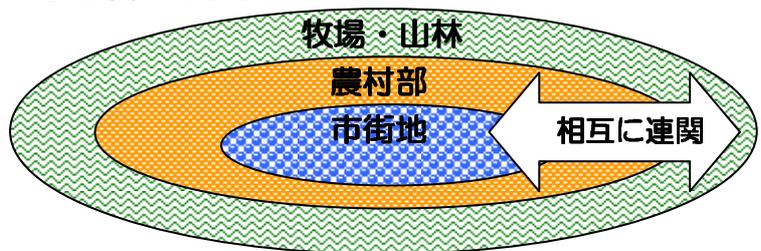
森林や農地の多面的機能が維持され、市民協働により農村文化の保存・伝承と、農村景観が保全されています。

取組項目:生活環境の整備、多面的機能の発揮、農村文化の保存・伝承、交流・定住の推進  
有害鳥獣対策

### 実現のためのビジョン

本市の地形は、市街地を中心に、その周囲を農村部が、その周囲を牧場や山林が取り囲むという国内でも稀な盆地の地形になっています。中心部では商工業が展開され、その周囲で農業・畜産・水産業が展開され、その周囲では林業が展開されており、お互いの産業がそれぞれ密接に関わって、産業振興及び地域づくりが進められていることから、盆地の地形を生かした一体的地域づくりを展開します。

農業・農村は、食料生産という重要な役割を担うと同時に、自然や景観、歴史文化、伝統芸能などの地域資源が豊富に存在し、国土保全や水源かん養、多面的機能の発揮が求められていることから、



市民協働による農村文化の継承や、中山間地域等直接支払制度等を活用した景観保全の取り組みなど良好な農村環境の保全を推進します。

交流・定住の推進については、NPOやで・くらす遠野等と連携した農林業体験や農家民宿受入などのグリーン・ツーリズムや、移住・定住に向けた活動を推進します。

有害鳥獣対策については、特にも農作物に対する被害が深刻化しているシカ対策を強化して取り組みます。

Ⅲ 振興方向

**農業(Agriculture)振興戦略** 地域特性を活かした食料宝庫遠野の実現



**① オールいわての森づくり構想**

森林は市町村の区域を越えて存在しており、林業に係る取り組みは、一市町村では限界があることから、今回のビジョン策定を機会に、北上山系に連なる林業が盛んな市町村に呼びかけ、集成材やプレカット関係木材産業の連携や、次代を担う林業技術者養成のための公設林業大学校の設置など、川上・川下に新たな風を巻き起こし、オールいわての森づくり運動を推進します。

**公設林業大学校構想**



川井・遠野・住田木材産業連携



北上山系森づくり市町村連携

**② 馬搬技術の伝承**

遠野は、国内有数の馬産地としての歴史があり、今でも林業の現場では山林から木材を搬出する「馬搬(地駄曳き)」技術が受け継がれています。集材作業の機械化が進むなか、遠野らしいこの貴重な技術を後世に伝承していきます。



ベゴパワー  
**畜産(Cattle & Graze) 「牛力!!」リーディングプロジェクト**

**「畜産パワーが遠野を牽引!!」**

空前の大不況、企業倒産、派遣切り、失業雇用崩壊  
暗いニュースが立ちこめる中、故郷を振り返れば牛が見つめていた。  
立ち止まらず、ゆっくり、確実に……

譲って任せて私がいま



**なぜ牛なのか？**

**① あふれる生産基盤**

潤沢な草地資源、先人から受け継がれた財産をさらに発展させ、未来へ引き継ぐ。  
拡大が危惧される遊休耕地、これをあきらめず、耕種畜種にとらわれ無ければ、他の地域に類を見ない生産基盤を持つ。

**② 遠野人気質**

家に家畜がいること、馬産文化に始まり家畜と共に生きてきた遠野人の歴史は深い、牛飼いの心は地域、人々の中へ根付いている。

**③ 遠野のイメージ**

2008年3月28日、国の重要文化的景観として「遠野物語の景観」荒川牧場が選定された。  
家畜と共にこの地を育んできた、その歴史を証明する遠野市の原風景として内外に認知されている。

**④ 社会的背景**

高齢化による生産量の減少は、有名産地においても同様の全国的な現象である。  
このことから素牛の確保が難しくなり、安定ロッドを大規模に供給できる能力を持つことが産地としてアドバンテージを持つこととなる。

**牛による産業振興戦略**

牛が活躍できる環境、「市民」、「企業」、「行政」、「牛」の協働による地域づくり

**活躍の場**

私が活躍できる環境をください。(増頭大作戦)

○ハードの改良(草地改善・キャトルセンター)      ○生産及び支援体系の構築

**波及効果**

私には可能性があります。(利益享受の拡大)

○農村交流拠点としての価値      ○遊休耕地ゼロ作戦      ○企業連携      ○雇用創出

**未来へ**

先人から受け継いだ財産、共に未来につなぎましょう。(地域活性化)

○未来人への贈り物      ○人材育成

## IV 夢ある農業・農村

タフ・ビジョンは、農林水産業に携わる全ての人の生産活動を応援し、安全・安心な農産物の生産と多面的機能の発揮を通じ、食と職を提供し、夢ある農業・農村を実現します。

### がんばる農業者



### みんなで力を合わせ



### 一集落一農場実現



### 次代を担う遠野っくに食と職を提供!!



### 目指せ高品質産地



### 郷土芸能の伝承者として

